

明治九年

三

菅下布造

十一月

第一課

四萬八谷者心得

抑湯治の目的ハ泉質の病態ニ應じざる者ヲ求め
浴法を執守するハ勿論なきと又他ニハ醫療の力
を補助する者あり温泉湧出の地飛ぶ於る多く
山谷烟雲の間ニ位ニ常ニ清涼の空氣ニ富ミ
且凡俗の煩雜を脱するニ因テ治療の一大補益
トカセハ遊沐の羣客朝夕の舉動此ニ注意スル

くん、ある魚、故、互、飲食、節制、
 心思、淡泊、常、坐、右、を、清潔、を、
 温泉、醫治、本、真、の、目、途、不、達、せ、ん、を、要、す、魚、
 因、入、浴、心、得、の、大、意、を、左、陳、述、に
 一、浴、泉、の、温、度、大、抵、華、氏、寒、暖、計、の、九、拾、八、度、
 乃、至、百、度、を、適、宜、と、し、若、其、熱、度、之、り、
 過、り、常、水、を、混、し、を、藥、氣、を、稀、薄、を、
 魚、の、以、本、泉、を、長、く、放、冷、し、を、適、度、
 至、り、し、む、魚、

一、浴、数、ハ、老、人、一、日、を、少、壯、の、者、ハ、一、日、三、度、を、適、
 度、の、を、水、と、し、魚、尤、も、入、浴、時、刻、ハ、朝、夕、を、
 と、り、し、と、れ、
 但、漫、り、不、此、度、を、過、夫、と、き、ハ、多、く、害、を、招、く、
 魚、
 一、酒、食、後、直、了、入、浴、を、厚、り、し、
 一、湯、室、を、清、く、の、ふ、か、其、湯、亭、の、元、り、心、灰、

湯を打水とも浴室もすこ此は注意湯
 室を髪を洗ひ何もし下帯等決して
 濯く湯のうけ
 一 湯室におぬえ高聲を語り殊更小唄等
 騒りてきハ無用なる也

但客舎をわけても隣房を遠慮
 用ひ養生の法を協ひみ察注意去也

入浴して應ま名病症

慢性皮膚病 疥癬 頑固癩麻質私

脱舊挫傷自由を生む手足關節痠痺

神経痛

右之通可相心得候者也

明治九年六月

熊谷縣